

開催日:2024年8月18日(日) 18:00~20:00

Zoomによるオンライン会

参加者:清水(49C)、鶴岡(44M)、阿部(修 46 S)、佐野(62W)、吉平(50C)、山田(H16B)、望月(H15K)、窪田(46W)、二宗(46M) 以上は東海連合支部で、以下は他支部
原野(修 63K)、荒井(修 46C)、松原(修 56C)、倉林(44C)、堤(修 53S)
福島(修 50C)、飯塚(修 H17)、金井(修 46C)、田野崎(52K)
森口(50E)、中村(修 54C)、小林(H4E)、麻生(53W)、笠谷(H18C)

合計 23名

今回は「桐生八木節祭」をテーマとした。



山田さん

今年の東海連合支部総会時、原野准教授の講演内で「八木節同好会」の話も紹介され、同好会のOB山田さんも参加していた。

その「八木節同好会」をもっと語ってもらい、参加者に桐生との繋がりを再認識してもらいたいと今回を企画した。

プレゼンターの山田さんはH16B(生物化学工学科)で愛知県の会社で技術者として活躍中。

当時助教授であった原野さんが、「桐生はつまらない、楽しい事がない」という学生を桐生祭に参加させたことがきっかけ。



原野先生

「八木節最高！踊るだけでなく演奏もやってみたい」と言うことで原野先生を顧問に同好会としてスタート。

その時の様子を初代会長の飯塚さんは「踊って楽しかった。秋の学園祭で再度踊りたい」という思いを取り組んだと述べてくれた。

演奏もするという事で地元の名門八木節チームのけいこ場にも通い、初期のころは代用品の道具で練習を開始。

そういう活動の成果で、地元桐生タイムズにも記事として取り上げられたり、本祭の会場でも檜の上での演奏も実施。群大生に八木節を知って

もらいたいと群桐祭で5丁目のやぐらを立ててもらっての演奏。

そのような活動が後輩たちに受け継がれ、NHKから取材され放映されたり、教育学部音楽科の演奏会でのコラボ、地元のいろいろなイベントでの出演と広がっていった。



毎年の桐生祭にはOBやOG

が帰桐し、学生たちと踊り、宴会で盛り上がり、強い絆が構築されていった。

しかし、入会の学生も減少し、2019年同好会17年の歴史を閉じざるを得なくなった。そしてコロナのため、桐生八木節祭も中止の時代に入った。その間はオンライン八木節同好会を開催し、仲間の繋がりを維持してきた。

山田さんは、「大学の友は一生の友。八木節同好会があったことからこそ、その意味を強く感じている」と結んだ。

参加者からは、八木節を通しての素晴らしい活動をもう一度立ち上げてほしいとの応援メッセージが多く寄せられた。再興のキーとなる可能性を秘めた学生はいる。一つのきっかけがあれば、また盛りあがる。そのきっかけを見つけないと言葉もあった。

学生同士の繋がりが、地域と一体になった活動や繋がりが、それらは教室では体験できない、学べない大切なものであり、卒業後もその人の人生の豊かさに結び付けてくれている。